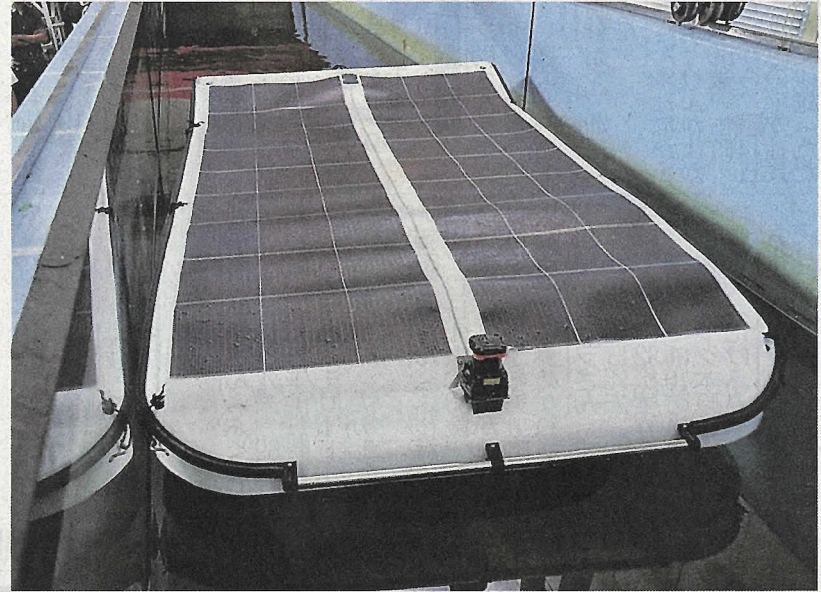


ながさき 暮らし経済



長崎大の実験棟で試運転するアオコ処理の舟形ロボット

アオコ処理舟形ロボ開発

長崎大など

自律稼働、超音波を照射

長崎大海洋未来イノベーション機構(長崎市)の山本郁夫教授らは、水質浄化装置メーカーのエビスマリン(同)と共同で、湖などで植物プランクトンが大量に増殖するアオコを処理する舟形ロボットを開発した。遠隔操作によって水面を移動し、太陽光で動くため自律的に稼働できるのが特徴。エビスマリンの寺井良治社長は「必要な機能を加え2018年中の商品化を目指す」としている。

エビスマリンの推計によると、国内では約千カ所の池やダム湖などにアオコが繁殖。海外ではアオコが出す毒素による生活用水への被害や、悪臭を放つこともあり処理方法が国際的な課題になっているという。

舟形ロボットは全長約2.5メートル。舟底から水中のアオコの浮袋をつくる組織を破壊する。水面に浮くことができず光合成ができなくなったアオコは水中に沈み、微生物などによって分解される仕組み。

タブレット端末などでアオコの発生範囲や移動経路など活動エリアを設定し、搭載した通信端末を使って

ロボットに伝達。操作に従って障害物を検知して自ら回避したり、電圧が下がれば所定の位置まで自動帰還したりする。動力には、同大が開発した「魚ロボット」のひれ形推進システムを導入し、自在に移動することができるのも特徴という。

(布谷真基)

ジェイエア機内で軍艦島ラスク提供

大阪 長崎使

日本航空傘下のジェイエア(大阪府池田市)は、大阪発長崎行き機内で製菓会社「肥前ほがや」(大村市)が販売する「軍艦島石炭ラ



「スク」を握り、31日世界文化(端島)で石炭にちなスクで、サと、グラニ特徴。12枚

古民家風の店内に有明海のワカメや昆布を使った独自の加工品など約千種類に上る商品が並んでいる。島原半島の幹線道路である国道251号沿いに、地場の総合食品販売「北田物産」が1989年にオープンした直売店だ。

自社製品に加え、そうめんや豆菓子などの特産品も多く、島原の郷土誌や歴史関連



海産物センターきた田 島原市亀の甲町

2012年3月、新上五島町

テル「五島列島リゾートホテル